

学力向上に効果のある取組事例

宇佐市立宇佐小学校

③主体的に学習に取り組む態度の涵養

取組の具体

◎平成30年度～令和2年度の3年間、校内研究で算数科の授業を中心に、子どもたちが「主体的・対話的に学び合える」授業づくり、子どもたちが「学び合いの楽しさや良さを実感できる」授業づくりをめざしてきた。研究を通して、子どもたちが友だちと学び合うことの楽しさや良さに気づき、他者と協働して課題を解決する力を一定量まで培うことができた。その礎の上に令和3年度の学力向上の取組を積み重ねている。以下に取組の具体例を示す。

①授業の前半に、子どもたちが課題を引き受け、進んで自分の考えを持つとする場面を設定する。また、課題を引き受けることが難しいと思われる子どもに対しては、前時までの学習をまとめた掲示物による振り返り、図や具体物の提示、ヒントカード等の手立てによって自分の考えを持つことを支援する。

➢子どもがどこに一番困りを持つのかを予想し、その手立てや教具の準備を周到に行う。例えば、図形の問題では、既習の公式を当てはめる際に、特徴的な図形は複数用意しておく。説明の際に操作しながら、当てはめられるようにすると理解しやすい。

②対話的に学び合う活動の工夫として、少人数グループや全体で話し合う場合にネームカードを使って立場を明らかにしたり、ICT機器やホワイトボードを活用して全員の考えをモニターや黒板に位置付けたりする生徒指導の3機能を意識した場面設定をする。

➢これを徹底することで、自然に「ここはどういうこと?」「どう思う?」と対話的に学び合う子どもたちの姿に繋がっている。

③単元を通して、「説明用プリント」を使って理由を明らかにしながら順序よく説明する活動を繰り返し徹底して行う。

➢他の友だちの多様な考えを理解したり、自分の説明したりすることで、公式を一般化していきながら、確かな数学的な表現力を養うことに繋がっている。

④「授業以外の取組」に力点を置いた学力向上の取組

➢より自他の思いや考えを尊重し、支え合える子どもの育成をめざして、令和2年度から「人間関係づくりプログラム」の実践研究に取り組んでいる。

